

とちりハ通信

とちぎリハビリテーションセンター

もくじ

- ◆各部の近況
平成24年度とちぎリハビリテーションセンター
利用者満足度調査結果から 1~2
高次脳機能障害セミナーを開催しました 2
雪の中でも元気いっぱい☆ 3
- ◆連載 3~4
診療部より (第3回)
骨粗鬆症~整形外科~
リハビリテーション部より (第3回)
言語療法科 (ST)
- ◆インフォメーション 4



第42号 2013. Mar

◆各部の近況 -各部の実施した行事、イベントなどをお伝えします-

管理部

平成24年度とちぎリハビリテーションセンター利用者満足度調査結果から

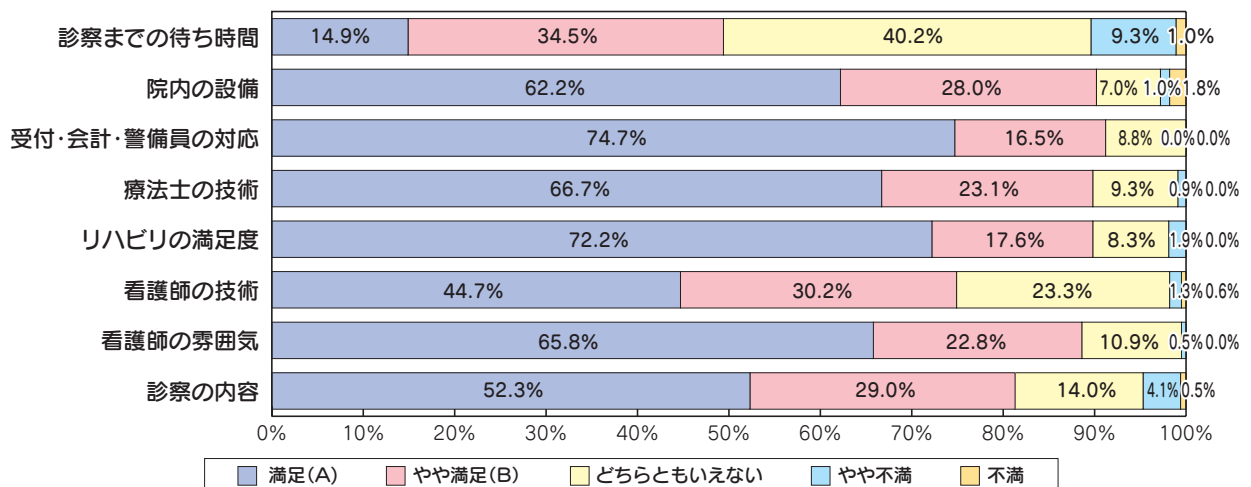
とちぎリハビリテーションセンターでは、病院部門の運営改善や職員の意識改善の参考とするため、毎年度実施しており、今年度は平成25年1月に外来患者様194名、入院患者様52名のアンケート集計結果の概要（数値は5点満点の平均得点）を報告いたします。

①外来患者様のサービス満足度

質問20項目のうち19項目が4.0以上でした。全体では4.4と、昨年度の4.3を0.1上回ることができました。特に【療法士の言葉づかい】【臨床検査技師の対応】【受付・会計・警備員の対応】が4.7と最も高い評価でした。続いて【医師の言葉づかい】【リハビリの満足度】【療法士の技術】【院内の清掃】が4.6でした。

一方、最も得点が低いのは【診察の待ち時間】で、3.5となり、昨年度の3.6を0.1下回りました。これは、患者様一人ひとりに対する医師の丁寧な診察に伴うものと考えていますが、待ち時間の短縮努力を求められたものと改めて受け止めています。

外 来 の 満 足 度



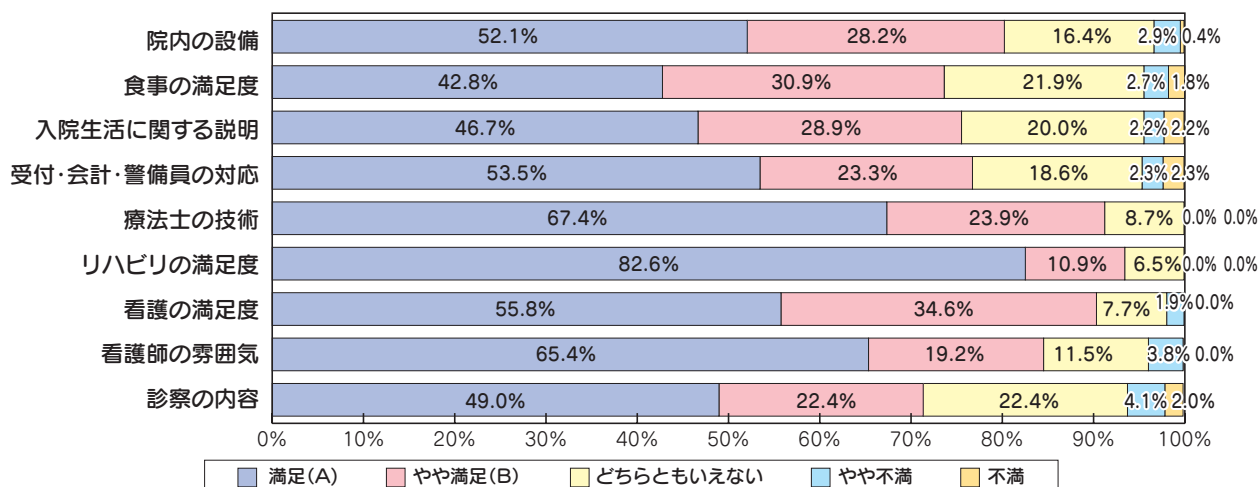
②入院患者様のサービス満足度

質問30項目のうち28項目が4.0以上でした。全体では4.4と、昨年度の4.2を0.2上回りました。中でも【リハビリの満足度】が4.8と最も高い評価でした。続いて【療法士の言葉づかい】が4.7、【看護師の言葉づかい】【療法士の技術】【リハビリへの意欲】が4.6と続いています。

得点が低い項目は、【食事のメニューについて】【食事の味について】の3.8でしたが、食事全体の満足度

としては4.1と昨年度の3.9を0.2上回りました。食事についてはカロリー計算や塩分、糖分等の調整が必要となりますが、メニューや味に満足いただけることが重要と受け止め、引き続き改善を図っていきます。

入院の満足度



③自由意見

外来患者様からは、「土曜日も診察してほしい」「訓練前診察は希望者でいいのでは」「手続きや予約がちょっとめんどう」「診察と会計の待ち時間を短くしてほしい」「院内が暖かすぎた」等のご意見・ご要望がありました。また、「スタッフの対応がやわらかく子供も安心して受診しています」という良い感想をいただいています。

入院患者様からは、「みんな親切でありがたかったです」との好評をいただいた反面、「笑顔が少し少ないように思いました」「ことば使いのキツイ看護師がいた」というスタッフに対する苦情もありました。また、「休憩室のエアコンが効かず寒くていられませんでした」「デイルームにいろいろな本がもっと数多くあれば良い」という設備や運用、ソフト面にもご意見・ご要望をいただきました。

ご意見等は真摯に受け止め、十分検討し、改善できるよう努力してまいります。なお、暖冷房等につきましては、地球温暖化防止やエコロジー、電力需要抑制に呼応する節電、経費節減等の観点から、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。アンケートにご協力いただきました皆様には、お忙しいところ誠にありがとうございました。今後とも、ご満足のいただけるようセンター全体で取り組んでまいります。



高次脳機能障害セミナーを開催しました

事故や病気などで脳を損傷した場合に現れることがある「高次脳機能障害」への理解を深めるため、平成25年2月3日(日)、とちぎ健康の森講堂を会場にセミナーを開催しました。

今回は、神奈川リハビリテーション病院高次脳機能障害支援室長で医師の青木重陽しげはる氏に「高次脳機能障害～どう対応したらよいか」をテーマに講演していただきました。講演では、同障害のステージとして、急性期医療、医学的リハビリ、社会リハビリ、社会参加の4段階

の分類が紹介され、各段階での生活の安定が重要であることを強調されました。また、各関係機関には柔軟な対応と連携が求められるとのお話がありました。

当日は、高次脳機能障害の方やその御家族及び医療・福祉・介護に携わる方など278名の参加があり、「具体的な事例を聞いて、今後の対応に役立てられると思った」「職場復帰までのプロセスについて理解が深まった」等の感想が寄せられました。

今後も高次脳機能障害へのより良い支援の輪を広げていくために、同セミナーを毎年開催していく予定です。





雪の中でも元気いっぱい☆

施設部

こども発達支援センターに通うお友達は、暑い日でも寒い日でも、天気が許す限り外に出て遊びます。みんな外遊びが大好き！外遊びは、歩く・走る・砂遊び・遊具などで体力づくりや運動機能の発達を促進します。動植物をはじめ、自然と親しむことで情緒の発達を促します。

そんな日常の中、雪が降った次の日は特別！雪化粧した園庭はなんだかいつもと違います。わくわくドキドキ。長靴を履いたら準備OK！吐く息が白い中、お母さんと手を繋ぎながら転ばないように慎重に歩きます。雪を丸めてボールにしたり、スコップで雪を集めたり、雪の斜面でソリ滑りをしたり…思い思いに雪遊びを楽しみました。季節を楽しむことも、外遊びの楽しみのひとつです。溶けていく雪を見て、“また雪降らないかな？”と思いながら今日も元気いっぱい遊びます。

◆連載

診療部より（第3回）

○骨粗鬆症 ～整形外科～

骨粗鬆症とは全身性の骨の病変であり、骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大する疾患のことです。骨強度は骨密度と骨質の2つの要因からなります。骨密度は70%ほど、骨質は30%ほど骨強度に影響します。成人になるまで骨は成長が著しく、どんどん骨量を増やし、20歳前後にはほぼ完成した骨格を形成しますが、どのような人でも一定の年齢になると骨量は減少しやすくなります。これはある程度宿命的なことではあるものの、人によりこの骨量の減少程度が異なります。骨量が減り、骨折を起こしやすい状態になることを骨粗鬆症といいます。

骨粗鬆症による骨折の危険因子

骨粗鬆症による骨折の危険因子には以下のものがあります。
女性、高齢、低骨量、過去に骨折したことがある（既存骨折）、現在の喫煙、過度のアルコール摂取（1日2単位以上）、大腿骨頸部骨折の家族歴、運動しない

骨粗鬆症に対する予防・治療法

・食事療法

カルシウム（Ca）は少なくとも1日800mg以上を摂取しましょう。

ビタミンDをとると、Caの吸収率が高まり、骨の形成を刺激することができます。筋肉の衰弱を抑える働きもあり、転倒の予防にもなるでしょう。ビタミンDは魚、卵に多く含まれていますが、日光（間接光でよい）に当たることにより皮膚でも十分量が合成できます。

ビタミンKは骨の形成を促進するでしょう。骨粗鬆症の治療薬として使われていますが、納豆からも多くのビタミンKをとることができます。

良質のタンパク質を十分に取ると、成長因子が作られ、骨や筋肉の合成を刺激してくれます。

野菜や大豆製品に多いカリウムやマグネシウム、ビタミンC、フラボノイドも骨の代謝により影響を与えることが期待できます。

・運動療法

高齢者一般、症状の強くない骨粗鬆症症例には、有酸素運動が薦められます。1日30分程度の歩行、または1日8000歩程度の歩行や日常生活における運動量を高めることです。

慢性期症例では体操を中心にして、体幹筋力増強を図ります。

・薬物療法

骨密度の増加が基本的に重要です。しかし、薬剤によっては骨質改善効果の方が大きいと考えられる薬剤もあり、また骨密度の増加と骨折防止効果が一致しない薬剤もあります。

お気軽に近くの整形外科専門医などにご相談下さい。

リハビリテーション部より（第3回）

○言語療法科（ST）

英語のSpeech Therapy（スピーチ セラピー）からSTと略されることが多く、この略語が多く使用されています。

言語聴覚療法はコミュニケーションに関する様々な障害を対象としています。当センターでは主に成人において失語症を含めた高次脳機能障害や構音（発音）障害、小児において言語発達等の問題を対象としています。それぞれの問題に対し聴力、発声発語器官、言語状態、環境状況等様々な角度から評価し、一人ひとりに合ったプログラムを立案して治療的アプローチを行います。それとともにご家族にコミュニケーション上の問題を説明し援助方法等のアドバイスをすることも大切な役割となっています。

また摂食・嚥下指導を行っています。摂食・嚥下機能の話題は最近、テレビや新聞などでかなり多く取り上げられるようになった背景もあり、相談件数は以前に比べ飛躍的に増えています。

開設当初はわずか4名の職員からのスタートでした。その後少しずつ増え今年度は365日のリハビリ体制を整えたこともあり9名になりました。職員数の増加に伴い2階の個別指導室では数が足りず、フロアも6階に移ることになりました。6階の眺望は富士山がくっきり見えるほどすばらしく、職員一同、日々気持ちを新たに患者さんと共に頑張っています。



◆インフォメーション

平成25年度「とちり八病院研修会」 出前講座のお知らせ

患者さんの退院後における生活の質の向上や早期の社会復帰を促進するため、入院医療から在宅医療や介護保険サービス等に移行できるように、当センター病院スタッフが持っている医療情報を地域に還元し、支援することを目的に出前講座を実施しております。講座内容、申し込みについては、当センターのHPに掲載してありますので、ご覧ください。

編集後記

今号では、利用者アンケート結果を特集しました。利用者の皆様へより良いサービスを提供できるよう改善していきたいと思っております。

また、今後もとちり八通信を発行していくために、皆様からのご意見・ご感想等をお待ちしております。

（発行）とちぎリハビリテーションセンター 総務企画課

〒320-8503 宇都宮市駒生町 3337 - 1

TEL.028-623-6101 FAX.028-623-6151

URL <http://www.rhc.pref.tochigi.lg.jp/index.html>